



れんけいと支援



富山市今泉北部町2-1 / Tel: 076 (422) 1112 (代) <http://www.tch.toyama.toyama.jp> / 発行日 2011年2月

地域の医療・保健・介護・福祉の方とともに、皆様の健康をお守りします

肝炎治療の地域連携パス



消化器内科部長 樋上 義伸

肝癌の原因の80%を占めるのがC型肝炎ウイルス（HCV）です。HCV感染者の肝癌発症リスクは非感染者の1000倍とされ、肝癌の高危険群であるにもかかわらず、その大部分は無症状です。肝機能異常がある場合はもちろん、肝機能が正常な場合でも肝発癌が高率に見られるため、HCV保有者にインターフェロン（IFN）治療を受けていただき、肝癌への進行を防ぐことが喫緊の課題とされています。しかし、平成18年度で終了した「肝炎ウイルス検診」の受診率が約30%と低率で、また、HCV陽性と判明してもIFN治療を受ける患者さんが多くはありません。この現状を重くみた厚労省は、平成20年度から「肝炎治療7カ年計画」を施行し、IFN治療の医療費助成、連携拠点病院の整備、肝炎診療ネットワークづくりを行ってきました。

富山市民病院は、富山市内では最多の3名の肝臓専門医が常勤する日本肝臓学会認定の専門病院として、この肝炎診療にも力を注いでいます。C型肝炎のIFN治療を実施する際には病診連携が極めて重要と考えており、平成22年度の診療報酬改定で、専門病院での「肝炎インターフェロン治療計画料」が新設され、その計画に基づいてIFN外来治療を行う診療所等に対しても、専門病院への情報提供に対して月1回50点の加算（肝炎インターフェロン治療連携加算）が付けられたのも、同じ考えによるものです。

このIFN治療での病診連携は、週1回の通院による副作用チェック（症状、血算・血液像）とペグIFN皮下注射のうち、専門病院へは4週ごと、間の3週を診療所の先生にお願いすることを基本とするもので、富山県内共通の診療連携パスが定められています。患者さんは「肝臓病安心手帳（これも県内共通です）」を持って医療機関を受診し、これにチェックと血算データを書き込むことで簡単に情報共有ができるようになっています。

既に多くの先生方にIFN治療連携をお願いしてきましたが、患者さんの通院アクセスの利便性も大きく、さらに多くの先生方に連携パスへの参加をお願いしたいと考えております。



Contents

肝炎治療の地域連携パス	1
研修・講演・勉強会のご案内	2.3
2月の地域連携・開放型病床症例検討会報告	3
女性医師(ママドクター) もささえる富山市民病院	3
診療所・病院・施設訪問	4
NST学習会から 誤嚥性肺炎について	5
出前研修や出前講座のご案内	5
有害事象モニタリングセミナーを開催して	6
鬼は外、福は内!	6
睦美会看護講演が開催されました	6
平成23年度 S-QUE院内研修1000 について	7
医師不在のお知らせ	7
認定看護師とエキスパートナースからのメッセージ	8
編集後記	8

1 . 地域連携・開放型病床症例検討会

3月

日時：3月8日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂



ミニレクチャー：「パーキンソン病の診断と類縁疾患」

神経内科 町谷 知彦

パーキンソン病は脳内の中脳黒質における神経細胞が変性脱落することにより(1)安静時振戦(2)四肢筋緊張亢進(3)動作緩慢(4)姿勢反射障害等の特徴的な症状を呈する原因不明の疾患です。神経変性疾患の中では患者数が多く、それゆえ他の変性疾患に比べ診断や治療に関する研究が進んでいます。その過程でパーキンソン病とは異なるものの、同様の症状を呈する疾患の存在も明らかとなっています。

今回はパーキンソン病の特徴的症候を説明し、併せてパーキンソン症状の患者さんに対する検査の流れと結果判定、内服治療、及び頻度の高い類縁疾患とその鑑別のポイントについて説明します。

症例検討

1) 赤芽球（癆）抗リン脂質抗体症候群を合併した全身性エリテマトーデスの1例

紹介医：堀川内科クリニック 堀 亨先生 腎臓内科 大田 聡

2) 虫垂真性憩室炎の1例

紹介医：高橋医院 高橋 芳雄先生 外科 天谷 公司

4月

日時：4月12日（火） 19：00～20：15 場所：当院3階 講堂

ミニレクチャー：「新しい認知症治療薬」

精神科 長谷川 雄介

2 . 内科CPC



日時：3月8日（火）17：30～
場所：医局カンファレンス室

3 . とやまレントゲン読影会



日時：3月18日（金）19：00～20：00
場所：集団指導室

興味のある症例の提示

4 . 糖尿病研究会定例学習会



日時：3月3日（木）17：30～18：30
場所：集団指導室

テーマ 「老年期と糖尿病地域支援」
講師 糖尿病エキスパートナーズ
副看護師長 立野 恵子

5 . 感染予防対策学習会



日時：3月7日（月）17：45～19：00
場所：講堂

テーマ 「感染予防対策の基本と手順
職業感染の代表的な疾患
ウイルス肝炎・風疹・麻疹・水痘・
結核・インフルエンザなど
職員の出勤停止、ワクチン接種」
講師 当院感染対策アドバイザー

波多江 新平先生

6 . NST学習会



日時：3月14日（月）18：00～19：00
場所：講堂

テーマ 「中心静脈栄養施行時の微量元素管理」
講師 テルモ株式会社

7 . 腎臓病教室

日時：3月16日（水）14：30～16：30
場所：集団指導室

（内容）

医師・・・腎臓病と治療について
臨床検査技師・・・腎機能検査値の見方について
管理栄養士・・・食事管理のポイントについて
薬剤師・・・薬剤の効用と副作用について
看護師・・・日常生活・血圧管理について
医事課職員・・・医療費について



病院ボランティア
篠崎 佳子

8 . 褥瘡対策学習会

日時：3月25日（金）17：45～

場所：集団指導室



テーマ「褥瘡手術療法・創傷被覆剤」

講師 形成外科医師 置塩 良政

日頃ケアしている患者さんの褥瘡について検討を希望される方は、褥瘡部の写真を3日前までにふれあい地域医療センターまでお送り下さるか、当日ご持参ください。

研修の機に対象となる職種マークをつけました。お気軽にお越し下さい。



9 . 看護研修



《衛星研修S-QUE Eナース》

日時：3月2日（水） 18：00～19：20

場所：講堂

テーマ「知りたい！臨終を迎える終末期ケア
患者ケアの実際」

日時：3月16日（水） 18：00～19：20

場所：講堂

テーマ「極めたい！エンゼルケアのコツと実際」
《衛星研修S-QUE 特別企画》

日時：3月25日（金） 17：00～19：00

場所：講堂

テーマ「平成23年度展望
これからの病院管理を語る
これからの看護管理を語る」

女性医師（ママドクター）もささえる富山市民病院

当院では、女性職員が結婚・出産後も働きやすいように、富山市育児短時間勤務制度の積極的な活用や院内保育所の利用時間延長、夜間保育など、女性の立場を理解した勤務環境の整備に取り組んでおります。その取り組みについて、チューリップテレビから当院の女性医師へカメラ取材がありました。



《連載企画》 診療所・病院・施設訪問 71 アメニティ月岡

今回は「アメニティ月岡」を訪問させていただきました。

名 称	介護老人保健施設 アメニティ月岡
住 所	富山市月岡2丁目189番地
医 師	理事長 多喜 和子先生
病 床 数	96床（短期入所分含む） 通所リハビリ…40名 併設施設名 月岡居宅介護支援事業所
施 設 区 分	介護老人保健施設

訪問記



多喜先生とスタッフの皆さん



アメニティ月岡前景

まだまだ寒い日が続く2月中旬、雪景色を眺めながら富山市月岡の老人保健施設「アメニティ月岡」を訪問させていただきました。理事長である多喜和子先生から、お話をお聞きしました。

この施設は平成5年に開設され、定員は96床（短期入所含む）、通所リハビリテーション（利用定員40名）も毎日30数名の方が利用されているそうです。また、居宅介護支援事業所が併設されており、地域の方々の介護・福祉の窓口としての役割も果たしておられます。

多喜先生は、住民の方々に施設やサービスを知っていただきたいという思いから、広報誌などを通して、地域への働きかけを大切にいらっしゃるそうです。また、利用者が自宅へ帰られる際にはリハビリのスタッフが事前に利用者宅を訪問し、家屋評価を実施することで、安心して在宅生活へ戻ることができるよう配慮しているとの事でした。

一方、施設利用者も認知症の方が増加しており、この方々のいろいろな精神症状や行動異常などの周辺症状軽減のためにも落ち着いた環境が必要ということから、園芸や花作り、料理リハビリなどに積極的な取り組みをされているとのことでした。廊下には職員による手作りの飾り付けや、イベントの様子が数多く展示されており、このような活動の様子をうかがい知ることができました。外での活動は当日の天気を見ながら急遽「行って来よう！」となることもあるそうで、「お薬による治療よりも環境が大切」という先生のお言葉を実践されているのだなあと感銘を受けました。

リハビリ室、浴室など、各ユニットは広々と十分なスペースが取られており、車いすの方も快適に過ごせるように配慮されていました。平成7年には敷地内に温泉が湧出し、露天風呂も喜ばれているとのこと。しかし、何よりも印象的だったのは、スタッフの元気のよい「こんにちは！」という挨拶と明るい笑顔です。和気あいあいと声をかけ合っておられる姿に、こちらも思わず笑顔になりました。

あいにくのお天気に立山連峰は見ることができませんでしたが、寒さも忘れてしまいそうな、温かい雰囲気につつまれながら帰路につきました。



通所フロア

誤嚥性肺炎について

呼吸器内科 山本 宏樹



現在、日本における死亡原因の第4位が肺炎です。肺炎で死亡する方の90%以上が65歳以上の高齢者で占められています。

高齢者肺炎の特徴は、治療によって改善した後肺炎を繰り返すことで、大半は誤嚥性肺炎です。

誤嚥性肺炎とは、口腔内、咽頭、副鼻腔、歯周に常在する病原体が、唾液とともに気道内に流れこみ、気道内感染を起こして発症する肺炎です。この繰り返す誤嚥性肺炎の原因は、夜間を中心に本人や周りの人が気づかないうちに誤嚥を起こす、むせない誤嚥（不顕性誤嚥）が問題となります。

就眠中は喉頭の知覚低下により、嚥下反射が低下します。このため、唾液が喉頭から少しずつ気管に流れ込みます（少量ですからむせません）。1回の誤嚥ですぐに肺炎を発症することは少なく、これを繰り返すことで肺炎を発症します。特に高齢者では、脳梗塞後遺症や無症候性脳梗塞が不顕性誤嚥の頻度を増加させる大きな要因となるため、誤嚥性肺炎の発症頻度が増加していると考えられています。

誤嚥性肺炎の治療は、まずは肺炎の治療のため抗菌薬を投与します。ラクタマーゼ阻害剤配合ペニシリン系薬が第1選択ですが、基礎疾患や病状に応じて広域抗菌薬を投与することもあります。抗菌薬以外の治療も重要です。誤嚥しても肺炎にならないようにすること、誤嚥しにくくする

ことがポイントです。

に関しては、誤嚥を起こしても細菌量が少なければ肺炎を発症しにくくなるため、口腔ケアを行うことで口腔内細菌量を少なくすることが重要です。

に関しては、就眠中になるべく頭位あるいは上半身を挙上する、発声や嚥下リハビリテーションで嚥下筋群を動かす、意識レベル低下が筋力低下、筋弛緩を来たすため睡眠剤や向精神薬などを減量、中止することなどが挙げられます。嚥下反射を改善させるとされる薬剤も、適応があれば投与することも改善の一助となります。

そのほか、栄養状態の改善、運動リハビリテーション等で全身状態の改善を図ることなどが挙げられます。

誤嚥性肺炎の治療・予防は、個々の症例において医療、介護を含めた総合的な対策を講じることが重要です。そして誤嚥性肺炎の減少は、高齢者の入院回数を減少させ、日常生活の質の向上につながると考えます。



出前研修や出前講座のご案内

当院では、地域医療機関や施設のスタッフの方々と共に学ぶ研修や学習会を積極的に開催しています。また、より多くの方に学びの機会を提供したいと思い、当院の医師や認定看護師やエキスパートナースなど専門知識を有する職員が地域へ出向いて研修を行う「出前研修」や市民の方対象の「出前講座」も積極的に実施しています。今年度は1月末までに78ヶ所に出向き、延べ2,724名の参加をいただいております。今後も地域医療支援病院として地域の医療を支援する役割を十分に果たしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いたします。



《出前研修内容例》

糖尿病管理、救急蘇生、看護記録、感染管理、「がん」について、ターミナルケア、接遇、医療安全、小児救急、子どもの病気、苦情対策など

有害事象モニタリングセミナーを開催して

薬剤部 駒井 智美

地域の薬局薬剤師との情報の共有化を図るため、「透析患者に対する治療薬の使い分けと有害事象」というテーマで、第3回有害事象モニタリングセミナーを2月14日(月)18時より、院外の調剤薬局から24名参加いただき開催いたしました。

当院薬剤部からは「腎不全保存期から透析導入までの当院による取り組み」と題し、とやまCKD(慢性腎臓病)病診連携パス使用時の病院の薬剤師と調剤薬局の薬剤師のそれぞれの役割について講演いたしました。また特別講演として腎臓内科の大田医師が「透析患者の病態と頻用される薬剤について」と題し、講演いたしました。参加した方からは「腹膜透析と血液透析の違いは?」や「血管の石灰化とはどのようなものか?」などの質問がありました。

CKD地域連携パスを用いて病診連携を行うことで、定期的な情報交換や適時適切な検査や処置、状態に合わせた継続的な治療が可能となります。病院や調剤薬局の薬剤師は薬を通してそれぞれの役割に応じた医療を提供することが求められており、地域全体で患者さんを総合的にケアすることで、より良い医療環境を提供し地域医療に貢献していきたいと考えています。



鬼は外、福は内!

2月3日(木)小児科病棟では、毎年恒例の節分豆まきが行われました。当院の男性職員と女性職員が青鬼と赤鬼に扮して、病室を訪問しました。「鬼は外!福は内!」入院中の子どもたちは鬼の姿にびっくりしながらも、病気の鬼をやっつけるぞとばかり「エイ!」と元気よく豆を鬼に向かって投げっていました。

日々病気と闘っている子どもたちが少しでも元気になるように、今後も季節が感じられるような楽しい行事を開催したいと思っております。



睦美会看護講演が開催されました

睦美会では、年度当初に希望する看護講演テーマをアンケート調査し、要望が多いテーマを元に講演を企画しております。第3回目となる今回は、「緩和ケアにおける家族ケアの実際」と題し、2月1日(火)17時30分より、当病院の緩和ケア認定看護師 市橋啓子師長を講師に開催いたしました。大雪による足元の悪い中、院内より63名、看護学生7名と合わせて70名の参加がありました。

緩和ケアにおける家族との関わりや、患者さん・家族との関係、患者さんとの関わりなど、概論だけでなく、アンケート内容から具体例をあげ、とてもわかりやすいお話でした。

緩和ケアは終末期ケアと同等ではないこと、緩和ケアが必要であると感じたときには、すぐに介入していくこと等、多くの場面で参考になる内容でした。

また、講演後には看護学生から、「この後、緩和ケア病棟に実習にいきます。患者さんだけでなく家族との関わりが重要であることを学びました。この講演を参考に家族へのケアも考えていきたいと思っております」と感想がきかれ、これからの実習への意気込みが感じられました。

今年度睦美会教育部では、3回の看護講演を開催し、院外院内の多くの方々にご参加いただきました。来年度も、多くの方に参加していただけるような看護講演を企画していきたいと考えています。多数のご参加よりよろしくお願い申し上げます。



< 衛星研修 >

平成23年度 S-QUE院内研修1000' について

S-QUE研究会が企画・運営を行っている衛星研修を、当院が開催して3年目となりました。平成23年度の研修は、厚生労働省「新人看護職員研修ガイドライン」に基づいた臨床看護師育成の教育プログラムとして、各分野のエキスパートが行う24回の研修、新医療看護連携と題して「チーム医療・地域連携」をテーマにした研修が5回、特別企画として最近のトピックス的な内容や、平成24年度社会保険診療報酬等の研修5回など、と3部門に分かれた

研修となっています。

臨床看護師育成のための研修は、新人看護師に限らず全ての看護師が対象で、看護技術・看護業務をテーマとした内容です。開催当初より地域医療機関からも多くの方の参加をいただいております。次年度も多くの方の参加をお待ちしております。

なお23年度のスケジュール・テーマ・講師については、「れんけいと支援」4月号の送付時に同封いたしますのでご参考ください。

S-QUE院内研修1000' 《Eナース》 23年度前期テーマ

- 4月 ケアに役立つ最新の感染管理の知識とスキル
これだけは押さえよう！薬剤の基礎知識
- 5月 心電図の基本を極めよう 基礎
意外と知らないIME機器の正しい使い方 応用
- 6月 ガイドライン2010に基づく救急蘇生法の解説 基礎
院内急変を予測できるフィジカルアセスメント 応用
- 7月 接遇・新人教育のコツ
看護におけるアサーティブコミュニケーション
- 8月 最新のケア技術（酸素療法）
最新のケア技術（気道ケア）
- 9月 最新のケア技術（褥瘡・創傷）
栄養管理の重要性を知る～経腸栄養剤の選択、下痢の予防と対応～



医師不在のお知らせ

外来担当日の休診のみ掲載

3月分

科名	不在日	医師名	科名	不在日	医師名
内科	7日	石田	外科・乳腺外科	10日	泉
	14日、18日	寺崎敏	整形外科・関節再建外科	2日、4日、7日、9日、11日	伊藤
	9日	山崎宏	歯科口腔外科	18日	寺島
	11日、18日	打越	脳外科	25日	宮森
	28日	水野		24日、25日、31日	山野
	31日	町谷	小児外科	3日、4日	岡田
精神科	22日、23日、29日、30日	吉本	皮膚科	28日	野村
形成外科	11日	置塩		30日	齋藤
	30日、31日	瀬戸	放射線科	11日	杉原

その他、急に不在となることがありますので、ふれあい地域医療センターまでお問い合わせください。



認定看護師とエキスパートナースからのメッセージ



皮膚排泄看護 エキスパートナース編

皮膚・排泄ケアエキスパートナースとして、現在2名の皮膚・排泄ケア認定看護師が「創傷」「オストミー」「失禁」という3つの分野で活動しています。

主な活動内容ですが、「創傷」については、褥瘡ハイリスク患者に対してラウンドを実施し予防的ケア指導を行っています。褥瘡患者に対しては、月2回医師と共に褥瘡ラウンドを実施して褥瘡のアセスメントを行い、病棟看護師へケア指導を行っています。また、院外医療機関にも褥瘡対策学習会を公開し開催しています。

「オストミー」については、ストーマ（人工肛門・人工膀胱）相談窓口を週1回火曜日の午後開催し、患者さんや家族へのケア指導や精神的なケアを行っています。他施設の看護師さんや介護士さんも患者さんとともに来院されることもあり、相談に応じています。その他、富山県オストミー協会（ストーマの患者会）「太陽の会」に参加し、共に学んだり、患者会の方々の相談に応じたりしています。



「失禁」については、医師やスタッフからの依頼を受け、排泄ケア・排泄コントロールやスキンケアについて指導を行っています。

また、出前研修を開催し、地域医療機関や施設のスタッフの方々に情報提供を行うとともに処置についての実習なども行っています。

これからも現在の活動を通して、「創傷」「オストミー」「失禁」など、患者さんに適切なケアを提供できるよう外来や病棟そして地域の医療機関との連携を大切にし、皮膚・排泄ケア看護を行っていききたいと思います。

編集後記

今年の冬は白銀の世界・・・というロマンチックにはほど遠く、通勤、通学、通院、送迎、そして往診に大変な日が続きました。

私事ですが今年のこの時期は病のため通勤できませんでした。今年は毎日徒歩通勤しながら、傘に積もる雪の重さに命の重さを、歩きにくい雪道に困難を乗り越える勇気を感じながら、この冬を終えようとしています。

春を迎えることができる幸せを抱きながら、患者さんやその家族のためにさらなる地域連携に努めたいと思います。今後ともよろしくお願い申し上げます。

リハビリテーション科 平井 瑞穂



「れんけいと支援」に関するお問い合わせは、ふれあい地域医療センターまでご連絡ください。送付を希望されない方はお申し出ください。

TEL 076 (422) 1114 FAX 076 (422) 1154

ホームページ <http://www.tch.toyama.toyama.jp/>
がん・なんでも相談室：メールアドレス shien@tch.toyama.toyama.jp